

技術向上へ理解深める

非破壊検査等の研修会開く

県コンクリート診断士会

福井県コンクリート診断士会（石川裕夏会長）主催の非破壊検査および

化学分析法に関する研修会が28日、鯖江市二丁掛

町のM・T技研福井事業所内で開催され、会員ら55人が参加し、コンクリート構造物の診断に関する知識を学んだ。

この日はM・T技研の技術者たちが講師を担い、それぞれの診断方法

や特徴を説明。参加者は、3つのグループに分かれ▽非破壊検査▽ASR簡易判定法（ゲルスティン法）▽化学分析について実習、体験した。

このうち、非破壊検査の研修では講師が電磁波レーダー、超音波、衝撃弾性波を用いた検査法を実演。波形の違いによる配筋状態に関する質問にも的確に応じアドバイスしていた。続いて参加者



検査手法の説明を受ける参加者ら＝鯖江市二丁掛町

が実際の機器を使い、教材のコンクリート壁面を測定。衝撃弾性波法では、参加者が壁に30秒間隔でセンサーを取り付けた後、周辺に衝撃を加え、振動の伝わる時間

を計測することで壁面の状況を確認していた。

このほか、ASR（アルカリ骨材反応）を低コストで即座に判定するゲルスティン法の効力についても知識を深めた。

石川会長は「いずれも我々にとっては欠かすことの出来ない技術。しっかり学び、理解を深めてもらえれば」と話した。